

会報

全国国公立幼稚園・こども園長会



主な内容

各部・委員会報告
各ブロック活動報告
平成二十八年度

全国大会―予告―

社会情勢の変化に対応した 幼児教育の充実を！

全国国公立幼稚園・こども園長会

会長 岩城 眞佐子



する時期になりました。今年度の調査報告書によれば、自己評価は、九十九%であるのに対して学校関係者評価は、七十%に止まっています。教育の質の向上のためには、評価・改善は欠かせません。園の教育内容を保護者・地域に分かりやすく伝え、客観的な評価反省を行い、より充実した次年度の計画を練っていきましよう。

新制度施行に伴う現状と課題

四月より子ども・子育て支援新制度が施行されたことを受け、九月の常任理事会では「新制度施行に伴う現状と課題」について話し合いました。幼稚園からこども園に移行した園も含め、施設の形態の変化や統合等によって、本会の園数の減少は例年に比較して多くなっています。しかし、各地域の情報を共有してみると、こども園に移行したことによって、三歳児の保育が始められた、教員と保育士が合同研修を行う機会ができた、預かり保育が充実できた等、よかった点もあることが分かりました。所管が教育委員会から首長部局へ変わった、すべての教職員の研修

の確保が難しい等という課題もありますが、改めて国公幼の果たすべき役割を確認し、地域の幼児教育の充実に寄与していきたいと考えます。また今後は、幼稚園教育要領の改訂に向けて、社会の変化や時代の要請に応えるような教育内容の充実が求められます。幼児の発達や学びの連続性を踏まえた質の高い幼児期の学校教育、すなわちこれまで培ってきた真に幼児期にふさわしい教育を実践し、組織の力を結集して、幼稚園・こども園の経営や教育内容の充実に努めてまいりましよう。

今年度の事業の成果を発信

今年度の特別事業は、テーマを「遊びを通して子どもの生活体験を豊かにする調査研究」として進めてまいりました。家庭環境が快適な生活となっている一方で、幼児が全身を使ったり、多様に手先・指先を使ったりする体験が乏しくなっています。そこで各ブロックでは、親子で遊び体験を豊かにするような研修会を開催し、盛会に実施しました。また保護者や教員を対象に生活体験や遊びに関するアンケート調査も行いました。年度末には実施した結果をもとに、国公幼としての提言をまとめ、リーフレットを作成し、各園にお届けします。どうぞ、幼児の遊びの充実のために活用してください。

平成二十七年度も残りわずかとなりました。古くから一月は「行く」二月は「逃げる」三月は「去る」と言われ、誰もが月日の過ぎ行く早さを感じる頃ではないでしょうか。しかしこの時期は、一年間の子どもの成長した姿を見ることができ、大変嬉しい時でもあります。進級・進学することに期待感を持ち、意欲あふれる子どもたちの輝く笑顔に、幼児教育に携わる喜びと充実感を味わうことができます。子どもたちのためにも、教師は自ら学び続け、自己研さんに努めていきたいと思えます。さて年度末を迎えて、学校評価を